

「M情報デスク」サポート団体
 NPO 法人百人の会 救う会大阪
 秋田美三輪さんを救出する川西市民の会
 現代撫子倶楽部
 米国に原爆投下謝罪を求める会
 日教組の違法行為を告発する市民の会
 竹島を奪還する会・関西
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会
 大阪の公教育を考える会、他

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

関西の
 市民の
 声

No. 157
 【発行・編集】
 MASUKI情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
 http://mid.parfe.jp/
 mid@jewel.ocn.ne.jp

百人の会東京集会-真夏の激論会



左より小坂議員、宮崎前議員、添田前議員、辻淳子理事長、土屋林前議員、二瓶前議員、増木、増木、荻野。前段左より空花、

8月2日、「NPO法人百人の会」は東京都文京区民センターで、「8・2真夏の激論会」と称して、来春の統一選をにらみ、大集会を挙行した。大集会を行った。なぜなら、教育再生の最も近道は、土屋先生をはじめとする浪人組にバツチをつけてもらうことだからだ。

午前中に靖国神社で、辻淳子理事長を先頭に昇殿参拝。午後2時から、三輪和雄日本世論の会会長に司会をお願いし、国旗に礼、国歌斉唱、英霊に黙祷で集会をスタート。辻理事長のあいさつの後今回の実行委員長(以降敬称略)鈴木正人埼玉県議が挨拶。小坂英二(荒川区)、山本光宏(大和市)、田中ゆうたろう(杉並区)、松浦芳子(杉並区)、栗林寿行(杉並区予定)、小嶋吉浩(前取手市)、二瓶

文隆(前中央区)、添田隆晴(前伊勢原市)、山本へるみ(前港区)、宮崎文雄(前文京区)、吉田康一郎(前東京都)、土屋敬之(前東京都)の順で大激論。特に土屋節の復活がうれしかった。そして村田春樹(自治基本条例に反対する会)がキッツイ「檄」一発。そしてNPO法人百人の会 関東理事 空花正人のお礼。最後に事務局局長増木がシユプレヒコール。最後に全員で「海ゆかば」を斉唱し会を閉じた。

理事長は、「先ほどご英霊に對し黙祷をさせていただきました。日本の教育はおかしい、もちろん学力の問題もあるけれど、学力以前の問題、心に問題がある。私たちは日本人としての誇り、日本民族としてのすばらしさが今の若い子たちには全く伝わっていない。皆さまもご存知のように、日教組による60年間の間違った教育のおかげで、日本人であることが恥ずかしいと、そんなことを言う子供たちを作ってしまった。私たちはこの子供たちに『日本人でよかった。日本人として本当に素晴らしい特徴を持っているのだ』ということをまず心に留めさせて、そこから頑張っていく子供たちを作りたい。教育は地方から。同じ思いを共有し頑張っていきたいと思います。」などと、話された。

本人としての誇り、日本民族としてのすばらしさが今の若い子たちには全く伝わっていない。皆さまもご存知のように、日教組による60年間の間違った教育のおかげで、日本人であることが恥ずかしいと、そんなことを言う子供たちを作ってしまった。私たちはこの子供たちに『日本人でよかった。日本人として本当に素晴らしい特徴を持っているのだ』ということをまず心に留めさせて、そこから頑張っていく子供たちを作りたい。教育は地方から。同じ思いを共有し頑張っていきたいと思います。」などと、話された。

私も最後に簡単に挨拶させていただいた。それは、「黙祷の時、皆さまは何を思われたか。私は英霊がどう思うか、この日本をどういう国になってほしくて散華されたか、それを思うと、ただただ『申し訳ない』この一語に尽きる」と。

今回、最後の「海ゆかば」の歌詞カード作ろうか迷いました。結局時間がなくて準備できませんでした。しかし杞憂でした。それはYouTubeでご覧下さい。「百人の会」↓「動画」↓「H260820真夏の激論」。

私が事務局長を務める会は、全員大きな声で、「海ゆかば」を斉唱できる。これが私のだれにも負けない誇りでございます。本当に暑い中、感謝に堪えません。



戦後70年を振り返る日本人的誇りを

8月5日

旭川大学名誉教授

本間正信

最近若い人の間に、歴史を学ぼうという風潮が広がってきたが、これは喜ばしいことです。この風潮が日本の近代史の真実を学ぶことへ広がっていくことを切に望むものです。

周知のように、昭和十六年十二月八日の大東亜戦争開戦当時の世界は、白人の国々が数百年におわたって有色のアジア、アフリカを征服し植民地にしてきたなかで、白人国の植民地支配を免れていたのは世界中でほぼ日本のみという状況であった。つまり、日本を侵略し植民地にすれば白人国はその世界支配をほぼ完成するという状況でした。

だから戦後、東京裁判で日本を侵略国だとして裁いたのは大間違いで、日本は「自衛のため戦った」という占領軍最高司令官マッカーサーの言うとおり、侵略国ではない。有色人種の解放にも貢献した日本。

若者よ、平和と独立を守るため歴史をよく学び、日本人としての誇りを持つてほしい。

敗戦記念日を祝うのは日本だけ

8月15日

京都北山の神主 中村重行

百人の会の顧問の本間先生より、久々にお手紙をいただいた。文頭には遺言のような、今にも死ぬような言葉があったが、何を言ってるんだ。先生も団塊の世代の一人として、

「日本人としての誇りを持つため、若者に、平和と独立を守るため歴史を教える」責務をもっともって果たしていただきたい。確かに先生の言われるように、最近歴史を学ばなければという風潮は広がってきた。しかし、まだまだ、それは百分の一にも満たない。

本間先生、老いてる暇はない。くたばることなど許されない。若者は先生の教えを待っている。

歴史は、少しでも知っている人が、自分の経験からものを言わないと、歴史の感動は伝わらない。そう言ってしまうと、だれも坂本竜馬を語れなくなってしまうが。しかし本を読んで勉強して知りえた知識を学生に開陳しても今一つ感動に欠けるのだ。竜馬のことを書いた本を読むより、竜馬の生きた土佐に行ってみる。彼の足跡をたどってみる。ともかくにも経験だ。少年よ大志を抱け。 Boys, Be ambitious.

札幌の羊ヶ丘公園にクラーク先生の銅像がある。薄野で酒を飲んで暴れるのめいが、クラーク先生の指さす方を見て、クラーク先生は何が言いたかったのかを若者に考えてほしい。それを教えるのが年長組の仕事だ。本間先生は年寄ではない。年長組の親分だ。その自覚をいただきたい。失礼しました。増木

月が開ければ思い出すのも嫌な敗戦の記念日が近づいて来ます。日露戦争や日清戦争などの戦勝記念日を祝うのなら理解出来ますが歴史上で唯一負けた日を戦後70年近く反省反省と大騒ぎして多くの国民を嫌な気分させるマスコミは世界中で日本だけではありませんか？

まして、戦勝国に出かけて行って母国の敗戦を祝っている議員がいるのは世界の不思議としか言いようがありません。何時もこの時期、当日まで半月も不愉快なマスコミの報道を見聞きしなければならぬのは日本国民にとっては拷問です。

繰り返し書き出すのも不愉快なので昨年のブログを下記にコピーします。

◎ナゼ8月15日をこんなにも騒ぐのか？ 毎年毎年マスコミは自国民を攻めるのか？ 理由は誰でも分かっているのに保守陣営も同じように言い訳したり騒いだりしながら結局は8月15日を盛り上げています。

2673年前の建国以来初めて破れた8月15日を何時まで祝っているのか？ ナゼ敗戦記念日の8月15日に戦没者慰霊祭を一齐に行うのか？ 敗戦記念日に慰霊祭を行う事など英霊に対する嫌がらせではないのか？

日本と戦っていない中共や南北朝鮮、それにソ連(ロシア)のように条約を破って敗戦のどさくさに参戦してきて多くの日本人を虐殺したり、永年捕虜としてシベリヤに抑留して多くの犠牲者を出した国々が戦勝記念日としているのに。我が国は奴らに負けた訳ではありません。

これら3国の実際を子供たちに卑怯者の見本として教えるのにはこの日は良いかもしれないませんが。マスコミはそんな記事は絶対に書きませぬね。

保守陣営にもこの日に天皇陛下や首相の靖国神社参拝を望む声が高くなって来ていますが私は大反対です。政治家の一部もこの日に詣るのをさも自慢げに話す人たちもいますが、日本の政治家が敗戦記念日に参拝する事が何の自慢になるのですか？ 見苦しいにもほどがあります。なにも敗戦記念日の8月15日に靖国神社でパフォーマンスをする事もありません。

靖国神社崇敬奉賛会の終身正会員になれば毎年年末には靖国神社からお札を送って来てくださいます、それを神棚に祭り、毎日手を合わす事が安倍首相の言う「英霊に対して尊崇の念を表す事」になるのです。神棚(お札)を通じて靖国神社に祀られている御霊に通じるのです。

何も8月15日にパフォーマンスのため靖国神社に出かける必要はありません。我が家の庭には「靖国社」をお祭りしています。毎朝米と塩と水を供えてローソクをつけて感謝と国の守りを祈願しています。

このお祭りしている祠は京都府立北桑田高校の生徒が卒業記念に作ったものです。屋根も銅張りでした。ここまでは昨年のブログから。 敗戦記念日にカコツケて英霊に対する嫌がらせはやめて下さい。

靖国のみなまほついがあわつて

8月16日

東京都 白井裕一

昨日は8月15日、終戦記念日だった。自分は、その設立にも参加した、靖国神社崇敬奉賛会青年部「あさなぎ」の助勤奉仕に終日従事した。

靖国神社崇敬奉賛会青年部「あさなぎ」での助勤奉仕は、この他、遊就館や参集殿の中での見回りと、参拝者の方々への麦茶接待である。実は、この麦茶の接待に関しては、自分が元凶である。

8月15日に、押し寄せる参拝者は、酷暑の下、水分の補給は欠かせない。そこで、咽喉が乾いた参拝者の方へ、麦茶をお出しして咽喉を潤してもらったらどうかと云い出したのである。ちよつとやかに入れた麦茶をお出しすれば良い、ぐらゐの軽い認識であった。現在、約1万杯ほどの麦茶を作り置き、参拝者へお配りするシステムとなっている。とてつもなき大事になってしまった。だが、参拝者の方々からはすこぶる好評で、もう8月15日の靖国神社参拝に麦茶の接待は無くてはならない要素にまで成ってしまった。ところが靖国神社崇敬奉賛会青年部「あさなぎ」の部員は、現在漸減傾向にあると聞く。とても残念なことであり、設立に関わった人間の一人として、自らの不徳を恥じたい。

もし、靖国神社に参拝し、少しでも靖国神社のために何か行動を起こしてみたいというお気持ちが生じた若者は、是非とも靖国神社崇敬奉賛会青年部「あさなぎ」に入会してほしい。8月15日などの靖国神社内での各種ご奉仕に是非とも参加してほしいのだ。

さて、自分は、コリゴリの左翼から転向した2002年以来、まだだったの12年だが、靖国神社の周辺に出没し続けている。勿論、その間、8月15日の終戦の日には、昨年の亡父の服喪の時を除いて、ずっと参拝、もしくは助勤奉仕に従事し続けてきた。つまり、ここ約10年間の靖国神社のご社頭を、定点観測し続けてきたことになる。この10年で、靖国神社の参拝者の顔ぶれは変わった。

一言で云えば、若者が増えたのである。12年前、靖国神社の参拝者は、圧倒的にお年寄りが多かった。戦友さんも80歳代から70歳代後半で、お元氣な方もまだまだたくさんおられた。御遺族も、英霊のご兄弟の方々が多数ご参拝にいられていた。しかし、今や、戦友さんはご存命なら90歳代から80歳代後半である。例え、お元氣であられても、靖国神社まで、ふらりと参拝に來られるのは困難になってきた。御遺族も、英霊のご兄弟は減り、その遺児の方に割合が移ってきた。その、遺児の方とて70歳代である。

昭和10年生まれの我が父は、終戦時はたったの10歳。国民学校4年生である。その父も昨年、逝った。英霊の遺児の世代も、次々に鬼籍に入る時期になってしまった。御遺族も、英霊の孫、曾孫の時代となり、中には玄孫の家も有るだろう。最早、大東亜戦争は、遙か時空の彼方に遠ざかってしまった。

自分の幼少時、「あの戦争」と云えば、日本国民の誰しもが大東亜戦争を思い浮

かべたものであった。それが、今では、国民の共通認識として無くなりつつある。更に、いわゆる「教科書墨塗り」世代、昭和10年代に生まれた層から、いわゆる「団塊の世代」「全共闘世代」層は、1960年代安保闘争や1960年代後半以降の学生運動の世代になるため、靖国神社に対しては、冷淡であるか、抵抗感を持っている。かく云つ亡父もそうだった。「俺、靖国神社って好きじゃないんだよね。」と靖国神社参拝に「うつつを抜かす」自分に、ふと漏らしたことがあったことを、自分は明確に記憶している。

今や、60、70、80歳代のお年寄りには靖国神社に対して「わだかまり」を持つ人が多い。だから、神社に來ても、帽子は被ったまま、頭も下げない、ろくに参拝もしないで大声で談笑する、所構わず傍若無人に写真を撮りまくる、何か氣に食わないことが有ると神職ハクレームをつける、こういう老人が恐ろしく増えた。

一方、靖国神社へ足を運ぶような若者の方が、余程、崇敬心が有る。自分は数年前、拝殿前で、髪の毛をツツンに逆立て、大きなピアスをジャラジャラさせている若者のカップルを目にした。

「こいつら、からかいに來やがって！」と睨みつけていたら、拝殿前で、きちんとお費錢を入れ、二礼二拍手一礼の作法で、見事な参拝をしたので、思わずのけぞってしまったことが有る。彼らの多くは、それこそ、大東亜戦争の何たるかも、英霊の何たるかも、ろくに満足に説明することは出来ないだろう。

だが、彼らは、間違い無く、敬神の気持ちを持ってきている。こちらの方が、余程、重要ではないか！ しかも、その真面目さが、ここ10年で一般化してきている。

10年前は、小泉総理(当時)が参拝する場所を見に來る、野次馬のような輩が多かった。境内に來て、あちこちをキョロキョロするだけで、靖国神社へ來た若者のうち、拝殿前で拝礼する者は実は少なかった。しかし、ここ10年で変わった。靖国神社へ來る若者は、例え、生まれて初めて参拝する人でも、ちゃんと手水をととり、鳥居の前では礼をし、参道の端を歩き、拝殿前できちんと参拝するのである。これはもう、決定的な違いと云って良い。これは、もう、数年来継続している、いわゆる「スピリチュアルーム」の影響を痛感する。

「霊験の有る場所を、「パワースポット」という新語に置き換えているが、何もご利益を前面に打ち出して神社・仏閣を言及することは、それこそ江戸時代以來続いてきたことである。重要なのは、その中で、かつて途切れていた、古来の参拝作法がきちんと教示されていることである。パワースポット特集をした雑誌には、ちゃんと神社での参拝方法がきちんと掲載されている。

勿論、「御利益」「御利益」で頭がいっぱいの御仁もいるが、それは、今後の課題ではあるだろう。とにかく、神社への参拝の導入としては、「スピリチュアル」や「パワースポット」は、非常に大きな影響を及ぼしたことは否定出来ない事実である。何と云っても、「神社に参拝すること」が古臭く、格好が悪いことではなくなったことが大きい。

自分のように、数十年来の神社・仏閣マニアはかつては本当に稀少であった。ちよつと頭がおかしい変人扱いだった。だが、今や、デートに行く場所に神社を指定しても、抵抗感が無くなったのである。これは決定的と云って良いと思う。

まだ言いたい！ヘイトスピーチ

8月11日

M情報 増木重夫

「純日本人会」の栗原氏とはほとんど意見が合います。でもヘイトスピーチに関しては私と意見が合いません。先日(10)の「純日本人会」のメルマガに下記のような記事がありました。それに関して、私見を！
『まず、「ヘイトスピーチを問題視する前に朝鮮人の土地取得を調査せよ!』』

と言っていますが、話が全く違うと思います。朝鮮人の土地取得を調査するのは当然でしょう。きっちりやらなさいといけないと思います。しかし、その話とヘイトスピーチは無関係。ヘイトスピーチはあってはならない。チンピラの喧嘩。言論で勝てない時に、汚い言葉で相手のいい尻理屈を押し付けているようにしか見えなからです。論戦で敗北したことを自分で認めるような話です。

『舛添東京都知事、ヘイトスピーチ規制を政府に要求―五輪開催都市で恥ずかしい言論を許していいのか』と非難』
全く当然であり、私は舛添を支持します。おっと、間違えました。舛添のこの発言、この発言に限定し、彼を支持します。しいて言えば、橋下の後追いかよ。と言いたくなります。

在特会の主張は正しいと思います。だから初代の関西支部長を私は引き受けました。ところがその主張が通らないからと言ってヘイトスピーチ化。あまりにも幼稚で短絡的だと思います。主張が通るも通らないも、在特会ができてまだ3、4年。「世間をナメンジャネ〜〜!」と言いたい。3年や4年で何が変わるとい

のですか。

私は、「法を破った」と言う理由で在特会関西支部長を解任されました。それはそれで私にとって最少の被害で済んだからよかったです。理屈として、「それなら桜井(高田)、自分をまず解任しろよ。」

と言いたくなります。自分の言いたいことが通らないと子供みたいに騒ぎ、拳句の果てがヘイトスピーチ。日本は(一応)法治国家。法の下で行動しないとけない。憲法の前文に「我らは代表者を通じて行動し」とある。そんな「法」などくそくらえとバカ騒ぎ。彼らの方がよほど朝鮮人に似ていませんか。

彼らのヘイトスピーチはほどほど迷惑しています。

私は20年間、しぶとく節度あるデモや街宣をやってきました。それなりに効果も出てきたと思っています。ところが最近、デモも街宣もできない。在特と間違われるからです。

一般市民から見れば「在特」も「昔ながらの地味な活動」も区別がつかません。大阪では月1回、石黒氏率いる「日の丸行進」という、非常にきれいな、デモと言ったパレードがあります。それさえ、「彼ら(在特)でしょ」と言ってきた人がいました。大変困っています。

私は「朝鮮と仲良く〜」と言っているのではありません。手段を考えよ、「運動」は作法がある。「言っているのです。」

【純日本人会メルマガ】 栗原茂男

純日本人会

<http://www.junihon.com/>

朝鮮飲みが噂となっている舛添東京都知事が愛韓発言をした。

『舛添東京都知事、ヘイトスピーチ規制を政府に要求―五輪開催都市で恥ずかしい言論を許していいのか』と非難』
<http://www.recordchina.co.jp/a922260.html>

在特会が怒るのは京都の公園で日本人が民族差別され、日本人の為の公園が朝鮮人によって占領されて締め出されている。在特会がデモをした新大久保だけではない、戦後の混乱期に駅前一等地などの日本人の土地を強奪してそのまま居座っている。

彼等は甚だしい民族差別を怒っているのである。

その怒りは在特会だけの怒りではない。純日本人なら誰でも感じる怒りである。

その怒りに対し、日本政府は調査すらしようとして来なかった、そして今も日本人の悲惨な被害に対して無関心を装っている。

朝鮮飲みもの者にはどうでも良い事かもしれないが、都知事は東京の広大な一等地で朝鮮人が如何やって入手し、資産形成したかを即刻調査すべきである。

韓国では対日劣等感から日本人に対し甚だしい人権侵害ぶりを見せている。

人と人との付き合いには互いの行動様式を合わせる必要がある。そうでないと付き合いは巧く行かない。

東スポ Web -
<http://www.tokyo-sports.co.jp/nonse/social/298628/>

★ヘイトスピーチ根絶に動いた舛添都知事

2014年08月08日06時30分

東京都の舛添要一知事(95)は9日、本紙の単独直撃に応じた。頻発する在日「リアン」に対するヘイトスピーチ(憎悪表現)をめぐり、首相官邸で安倍晋三首相(59)と7日に緊急会談する。

舛添氏は自民党の政調会で、立法措置を含めたヘイトスピーチ対策を検討するよう同党側に要請している。安倍首相との会談では「国会で表現の自由に抵触しない範囲で法整備が必要との見解を示す」と明かした。

また、8月12日の報知新聞、「辛坊持論」では、

私はヘイトスピーチが嫌いです。「〇〇人は出て行け!」なんて言いながら街を練り歩いている連中を見ると、「何て頭の悪い人たちだろう。」と虫唾が走ります(まったく同感。「頭が悪い」まさにその通り)。だって、〇〇人に悪い人もいれば、いい人もいますからね。具体的な事実に基づいて個々が批判の対象になるのは当然ですが、民族や国籍だけで善悪を決めつけることに一切の合理性はありません。

そして辛坊氏は慰安婦像こそがヘイトだと論を展開しています。そもそもがヘイトスピーチが好ましくないのは常識、道徳。それを規則化するのがおかしい。どこかの中学校の校則に、「友達をナイフで刺してはいけない。」などと書くのと同じだ。ルール化しなければならぬことが問題だ。

ヘイトスピーチ大好き諸君は恥を知るべきではないか。出ないと、最後には「お前らほかの国へ行け。日本人として恥ずかしい」と言われるぞー!

教科書の定例会傍聴報告

8月6日

東京 空花 正人

私は地元の練馬区教委の定例会を傍聴しました。

8月8日(金)、議題は小学校教科書採択です。

冒頭に、駆け込みで出されたサヨク勢力の陳情書「練馬区の小学校教科書について」が読み上げられ、即刻審議俎上になり、コテンパンに批判されて不採択となりました。

陳情要旨は、(1)内面の自由を脅かす「愛国心、公共の精神、奉仕」などを押しつける教科書は採択しないように、(2)教科書の裏表紙に「税金によって無償支給されています。大切に使いましょう」と記されているが、偏見を抱かせるので削除させよ、(3)放射線の科学的知識をよく説明した教科書を採用せよ、(4)領土に関しては公正な記述の教科書を採用せよ、(5)区立図書館にすべての教科書を配置せよ、という5点ありました。

特に1項と2項に関しては、教育長はじめ委員から明快に批判の意見が述べられたことや、3項と4項では教科書は総合的に評価されるべきもので限定的な観点では採択しないと断じられて、一括審議の結果、陳情不採択となりました。教育長は愛国心も公共の精神も教育基本法の大事な根幹部分であるといい、また別の委員は、義務教育教科書無償措置に至る先人の努力に敬意を払うべきであり、

税金を払ってくれる人々に感謝する言葉を教科書に記すことは大事なことである、という委員の意見は、まさに偏見を持つた陳情者に冷水を浴びせた快挙でありました。

さて、小学校教科書採択審議ですが、中身に入るその前に報告したいことがあります。

定員18名の傍聴席は31人の希望者から抽選で割り当てられました。抽選に漏れた人々は、抽選会場に充てられた大会議室内で、音声による聴取が可能です。

寧ろ音質音量的には委員会内部より聞き取りやすかったはずですが、こっそり録音もやるうと思えばできるのです。

私も同志4名の入室は確保されましたが、左翼陣営は6〜7名ほどで、残りは教科書会社の者と思われれます。

私の隣席の男女は、彼等の所属組織作成の「教育委員別教科書評価記入シート」を持参してきていました。それは各委員がそれぞれの教科書に関してどのような意見を述べたかをマトリックスに埋めていくための集計表です。まことに要領がいいと感じました。しかも単に社会科に限らず全科目について調査する使命を帯びて動員されているのです。左翼陣営の、ある意味組織的統制力を感じました。

昼に終わった教育委員会閉会後も区役所ロビー内で立ち話会議をやっていました。

教科書審議は、全11種目(国語から

保健まで)、順に4人の委員(教育長もその一人)が推薦する教科書会社名を挙げ、推薦する理由を述べていき、最後に教育委員長が自分の意見を述べて、多数決で採択教科書を確定していく流れです。少数意見であっても結果的には多数意見に承認を与える結果、全員一致とみなされます。

教育委員長のまとめかたは、現物を見ていないため断定はできませんが、おそらくは下部機関である教科書協議会(調査委員会―各校研究会)の答申を踏まえていると感じました。

教育委員は前回の教科書採択を経験していない新人が2名いました。この委員は、どうしても「体裁、見栄え、レイアウト、イラストなど」に推薦根拠を見出してしまいました。発言内容も全教科総じて抽象的、主観的であり、細かい声で自身の無さを曝け出していました。

教育長、T委員、教育委員長はベテランですから、多少は「学習指導要領」に触れてはいましたが、私が期待するような「実際の各教科の目標」ことに照らし合わせた議論はありませんでした。

社会科に限って少し審議内容を説明しましょう。

東書と教出の間で調整が図られました。東書を推す理由は「戦争、原爆など難しいことだが事実を伝える文章表現があり、分かりやすいイメージを持った」とか、「学習単元ごとに3段階のまとめがあり、問題解決に工夫がある」というものです。教出を推す声は「領土問題の関心にこた

えている」、「自然災害とくに東日本大震災における国、自治体、ボランティアなどの復興の姿を見せている」、「文字の大きさ、配列、吹き出しなど子供の視点で書かれている、学びの手引きが学習を深める」、「社会事象の説明が新しく客観的である」などといった、肯定的意見が多数を占めた教出に軍配が上がりました。

ちなみに現行教科書は東書ですから、ここで教科書会社の切り替えが起こるのです。

採択教科書が変化した種目は、2つであって、社会が東書から教出、地図が帝国から東書へと入れ替わることになりました。

私達の関心事である社会科の審議内容は、私が教科書比較調査で検証し、MLにも成果物を掲示したような、歴史的事項に関する個別具体的な観点評価はありませんでした。わずかに東書を推薦した新人の1委員が、戦争、原爆を単語としてだけ言及しただけです。戦争の記述がどうして分かりやすいイメージなのか、傍聴者には納得いきません。

すでにご案内の通り、各地で小学校採択審議がなされています。

来年の中学校教科書採択の予備選として、直に教育委員の顔を見、声を聴き、いかなる人物かを評定することができる、となない機会です。ぜひ実践をお勧めします。

傍聴(その後における議事録の精査)を通じて得られた教科書採択の問題点を、教育委員会、議員、首長に示し、改善を求めてまいります。

UNIK通信

7月30日

千葉 大谷 和 正

「家族軽視」が日本崩壊を招く

日本国憲法における「家族」とは？

現在の所謂平和憲法の中で、家族が如何に規定されているかを見てみよう。第24条は婚姻に関する条項であるが、第二

項で「配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない」と述べている。ここでいう「家族」とは「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」に基づき、男女の結婚で成立する「家族」を指している。父母や祖父母など時間軸の中で連続と続く、生命を受け繋いできた「共同体としての家族」という考えは全く見出せない。「家族」はあくも中心は「個人」なのである。両性の合意のみで成立する「家族」はまた両性の合意のみで簡単に離婚出来る軽薄なものとなってしまう。

現在、三組に一組の夫婦が離婚するといわれているが家族より個人を重視する現在の憲法のもとでは避けられない風潮なのであろう。世界の多くの憲法に見られる家族保護条項の規定がない日本の現憲法は欠陥憲法と言わざるを得ないのである。

日本国憲法の基となった「マッカーサーの憲法原案」

大東亜戦争敗戦後、アメリカ力は日本の憲法改正を策し、所謂「マッカーサー憲

法原案」を僅か一週間ほどで作成し、日本がこれをもとにして憲法改正を行うよう命じた。この原案作成に参加したのは米軍の弁護士等で憲法を専門とする学者の参加はなかった。

24条等の原案は当時の工の勤務していた、ユタヤ系の若い女性タイプピストによってつくられたと言つ。その原案によると冒頭に「家族は人類社会の基底にしてその伝統は善かれ悪しかれ国民に浸透する……」と家族の重要性を明確に述べている。

しかしこれを受けた日本側でこの重要な部分を削除してしまつた。当時貴族院本会議で「家族生活はこれを尊重する」という一文を加えるよう修正提案が牧野英一議員より出されたが、吾妻栄など左翼民法学者の反対で否決されてしまったのだ。

この憲法成立により、民法改正が行われそれまでの日本の家庭・家族が大切に守られて来た「家族の絆」はずたずたにされることとなった。

家族保護条項の必要性

高等学校の教科書に人工妊娠中絶を女性の自己決定権・基本的人権であると正当化するものが見られる。アメリカで墮胎をプライバシー権と認めた判例がある。墮胎を全面的に禁止していたテキサス州の法律が憲法違反だと言つて争われたもの。

これら世界的風潮は憲法に家族保護の規定がない日本において特に国民の暮ら

しに大きな影響を与えることになってしまつた。

中絶のような問題一つとっても、本来なら「家族」という存在をどう考えるかが先になければならない。その「家族」をもとにして「胎児の生命」をどの様にとらえるかという順序にならなければならぬ。個人の権利だけで解決しようとするとしても混乱が生じることとなる。

現在大きな問題となっている教育問題や高齢者福祉においても、家族という単位をどう考えるかによつて、その家族に対する国の政策は異なるものとなる。現在の個人重視の考え方は国が積極的に家族に対して手を差し伸べる流れにはならない。

小中学生の学力と家族の関係は

国の学力調査によるとトップは毎回、秋田、青森、富山、福井、石川などで占められている。上位県に共通する傾向は三世代同居が多い点であるらしい。学力が高い地域は体力も高く、早寝早起きといった生活習慣がしっかりとっている。それに加えて家族でよく話をし、携帯電話などはあまり使わず、お祭りなど地域の行事には家族みんなで参加するといふ共通の行動が見られる。

これは家庭・家族が教育の核となる役割をしっかりと果たしているためである。政府としてこのようなことは大いに支援していくべきであろう。しかし現在の憲法のもとでは「私」や「個人」だけが最大限に優先され「政府は家庭に介入すべきでない」ということになる。憲法がもたらした悪しき弊害と言えよう。

単身世帯が増加し、離婚率も高まり、少子化が進行し、親が子を虐待し、子が

親を殺す事件も後を絶たない。これらは家族の基盤が揺らいでいる証拠と言える。この状況を変える第一歩は憲法に「家族保護・尊重」規定を盛り込むことだと考える。

憲法改正の必要性

現在、憲法改正の論議があるが、その対象は主として第九条のようである。「自分の国は自分で守る」と言つのが独立国の最低条件である以上、アメリカに守ってもらふことを前提とする第九条は改正されねばならない。

しかし九条と同じかそれ以上に大切なのがこれまで述べて来た「家族保護条項」の設定である。国際社会では「社会の基礎は個人ではなく家族である」というのが当たりまえの考えであり、国が家族を積極的に保護しようとするのが国際的な常識である。

国際人権規定でも「出来る限り広範な保護及び援助が、社会の自然かつ基礎的な単位である家族に対して与えられるべきである」(第十条一項)と定められている。ドイツ憲法、イタリア憲法、スペイン憲法等世界の多くの憲法にも同様な規定がある。従つて「個人の尊厳」に加えて憲法に「家族の保護」を明記し、国や社会の手で家族を積極的に保護していく必要がある。「家族解体」の動きに歯止めをかけ、「家族」の大切さを説くことで、行き過ぎた個人主義も修正され、国民の意識も大きく変わることが期待されるのだ。

日本の将来を担う子どもたちの為にも、失われた「家族の強い絆」を取り戻す必要があると強く思つ次第である。

教育現場での心の教育

7月31日

長崎市議会議員

浅田 五郎

「長崎原爆の日」第一弾

「県内公立小中学校、休日登校今年は初の100%」の大きな見出しの記事を読みました。確かに、戦争の恐ろしさ、死、さらにお話、紙芝居どれも必要です。その意義に反対することはないと思います。原爆の日それは平和教育であり「命を大切ににする教育」にほかならなかつたのではないのでしょうか。

それなのに、なぜ、「命の教育、足りなかつたのか」苦悩深める学校現場

事件の高校長は「道徳の授業充実させて命の大切さを訴えてきたこのべている。

「二人の高校生」第二弾

この事件ほど、世の大人たちに悲しみと寂しさを与え、それぞれの立場でこの子らに責任を、あるいは、申しわけなかつたと多くの大人は感じているのではと思つてしまいました。それほど、佐世保の事件は衝撃的はどう言つていいのかわかりませんでした。被害者も加害者も、一人の被害者一人の加害者ですまされない、社会の病根にその原因が隠されていないのかと考えていきたいとも、思いま

す。ただ、被爆県長崎で他県より平和教育が進みすぎているはずなのになぜ、子供同士の事件が多いのはと考えて教育界の皆さんは正直どうしたらいいのと考えていると思います。

「公教育の使命」第三弾

教職員が365日公教育の使命を背負

つていけるとの自覚があれば長崎県教育庁総務課発行の長崎県教育関係職員録には校長、教頭以外全教職員が、名前、住所、電話、年齢、性別を載せてもいいのではと思ひますが如何でしょうか。平成5年までは、名前、最終学歴、住所、電話、年齢、性別は人名一覽にのせていました。

平成6年から12年までは、学校規模の欄も有りました。平成13年は先ず学校規模が消えたこと、校長以下全教職員の専科だけ残して住所電話年齢性別総て消えた職員録の誕生でした。その年県議会の本会議で質問を致したことが思い出されます。14年の職員録には、校長、教頭、主幹事務長以外の教職員はやはり住所電話年齢性別は無しで、それが26年度の職員録までつづいているのです。前は、宿直が居ました。土曜も学校がありました。現在は、金曜日の夜から、月曜日の朝までは学校は無人ですから何ら連絡は取れません。本県の教育界が、子供同士の事件がいかに多いかは一番分かつているのですから、危機感を教職員全体が共有できるでしょうか。

長崎県の教職員録に一人、ひとりの教職員が住所、電話、年齢、性別を載せてい

つても、何かあったら連絡して欲しいとの姿勢が子供達に見えれば子供達はあんしんでしよう。それには、教育委員会の県民の先頭に立って努力する姿勢を教職員に見せないと教職員はついていけません。

「教育界の本気度を問う」第四弾

8月9日は原爆の日です。戦争を好きな人は誰もいません。核廃絶は当然です。この日小中学校の生徒は夏休みなのに平和教育をつけるために登校日です。被爆県長崎が平和教育の先進地であることは自他ともに認めているだけに、この平和教育が本場に「命の大切さ」を教えて来たのかをこの子供の事件は今一度教育界に教育の本気度を提起したのではないのでしょうか。

「長崎県教育委員会委員長」にお尋ねします。第五弾

今朝の31日の新聞を読みお尋ね致します。

佐世保市にある中高一貫校の県北の名門校についてです。

第一、両親と離れて一人暮らしは県立高校で認めていられるのですか。第二に、高校には、三日しか登校してないのに、高校の担任の姿が見えないで、中学時代の担任が生徒を訪問していたとあります。一貫校だからという理由なら、一貫校のありようが問題のようですが。

第三に、秋に留学予定だから登校はなくてもよかつたのか。

命の大切さを訴えてきたのにという割には、県内の私立高校の教諭の言葉があまりにも重い。「不登校の生徒にたいするケアが足りなかつたのではないか」との言葉です。

結びに、元大久保小学校教諭の言葉は、「事件の二人を知る子供達に伝えたい。事件の原因、結論を急いではいけない。今は命を大切にしてください。決して自分を否定しないでください。自分と自分の家族を大切にすることをかんがえてください。そばに必ずあなたを大切に人がいるから」。

この教諭の言葉の精神が平和教育で8月9日に県下の小中学校で話されることを期待致します。教育県長崎の明日に希望を持たせて下さい。教育委員会委員長お願いいたします。

「教育界の本気度とは何か」をお考えいただきたい。

「個人情報保護法は悪法」第六弾

関係者は、「事件防げたかも」

8月1日の朝刊は佐世保・高一・殺害・精神科医が児相に相談

事件前「人を殺しかねない」との大きな見出しの記事を見て行政のお粗末さに腹がたつています。児童相談所が専門の精神科医の意見に真摯に耳を貸し取り組んでいたら、二人の女子生徒の人生を狂わせることがなかつたのではないかと、極めて残念です。この責任と顛末をどうするのか、長崎県の政治に課せられた大きな問題です。児童相談所(佐世保ことも・じよせい・障害者支援センター)は、個人情報と守秘義務があるからと内容を明らかにしていません。精神科医が実名を明かさなかつたからそのままにしておつたということになります。具体的に行政がことの重大性を感じて受け止めていたら事件はなかつたとも考えるだけに、なんともやりきれません。個人情報保護法が足かせになるなら悪法も法なりと言われても改善へ向けての努力を長崎県は先頭に立つべきです。行政の未熟さが浮き彫りになった事件として今後これをどう生かすのか死者にたいしても、取り返すことができないほどの行動に出た加害者のこの二人の女子生徒のためにも、県の責任の重さは、計り知れないものがありましよう。

辻淳子先生からのメッセージ

この度、大阪維新の会 女性局「ヴェルデ」がスタートしました。

私達女性は社会において色々な働きをしています。学生の場、企業の場、出産・子育ての場はもちろん、家庭を守り、また介護もする、その他にも地域を支える活動をする等、さまざまです。その様なそれぞれの立場からの女性のお声を、政治にはもちろん、まちづくりに反映していくことで、女性が「いきいき」と輝き活躍する大阪を創っていききたい。そしてさらに、高齢の方々に尊敬し大切にすると同時に、未来に向かって次世代をしっかりと支える大阪を創っていききたいと考えています。

女性局の名称である「ヴェルデ」は、イタリア語で「緑色」です。心に潤いを与える緑の樹々が、太陽に向かって枝を広げながら伸びていくような女性局になりますように、皆様と共に、育てていきたいと思えます。どうかよろしくお願いいたします。

Verde

今を生きる、共に繋ぐ。



いづれあやめかかきつばた・・・誉めすぎ

この「ヴェルデ」は、親分以外は皆若い(大政、和美氏はボチボチいいころだけ)。若い彼女たちが、「私は保守だ」などと言いつつやはり無理がある。辻先生の5つのメッセージを「ヴェルデ」の議員全員が共有でき、皆が天然で言えた時、素晴らしい街ができ、そして素晴らしい教育環境ができるのではないだろうか。

様に読んでいただきたいからです。本人に確認したわけではありませんが、これは辻先生の直文だと思えます。とかくこの手の文章は、従来事務局の窓際の小父さんが、もったいぶって3日ほどかけて書くものと決まっています。この文章は辻先生しか書けないもの。なぜなら、「天然」だからです。

写真を見ると、戦闘的男女共同ジェンダー隊。しかし、辻先生のメッセージをしっかりと読んでいただきたい。①「出産・子育て」、②「家庭を守る」、③「介護もする」、④「地域を支える」、⑤「高齢の方々に尊敬し大切にする」。思想の裏付けがないと書けない文章。しかし辻先生に言わせると、「いつも思

っていることをそのまま書いただけ。5分もかかってないわよ。」と言われるだろう。「天皇陛下万歳」だけが保守ではない。街の小さな出来事、日々の生活に根付く保守こそが本物の保守ではないでしょうか。

いたづら書きで始めたM情報。もうじき5年。必ず紙面のどこかに「保守」と言う言葉が出てくる。だから否が応でも「保守」とは何ぞやと考えてしまう。日常生活から自然とじみ出る「保守的な考え」が保守なのだ。「ヴェルデ」は横文字だ。だから彼女らは保守じゃない。などとバカは言わないでほしい。増木

活動資金の協力をお願い

【〒支援者の口座】
郵便振替 008080240947 MASUKI情報デスク
三壽会「J」銀 口座番号024349 普通 増木 豊

先ずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは子供達に誇りある国を残すため、日々命がけて戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

- ・使用申請料・交通費、通信費・資料、印刷等の制作費・備品購入費等
- M情報がサポートしている主な団体
- ・ NPO 法人 百人の会
- ・ 救つ会 大阪
- ・ 秋田美輪さんを救出する川西市民の会
- ・ 米国に原爆投下謝罪を求めるとの会
- ・ スパイ防止法の制定を求めるとの会
- ・ 日教組の違法行為を追及する会
- ・ 竹島を奪還する会・関西
- ・ 靖国神社に眠る御霊に感謝する会
- ・ 大阪の公教育を考える会、他

○ カンパ金の主な用途は下記団体の、

- ・ 活動の資料等の発送費・道路、公園

原稿・同封資料の募集について

弊会『M情報活動報告』は現在のごころ毎月全国約5千(目標1万)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらご記入事務所まで

諸情報のメール配信について

『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はどこよりも詳しく多様。量が多過ぎるお叱りをお返しの

ですが、試しに一度受信してみませんか。ご不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO 法人百人の会」)。 h100prs@oregano.ocn.ne.jp